



今も変わらず人気のガラポン抽選会。「おはこ市」のチラシ掲載店で買い物をしてシールを集めて参加しよう。最低でも50円の買物券が当たる！

「おはこ市」は、得意な芸や技を十八番(おはこ)というのになんで名付けられ、月によって変動はあるが、毎月18日前後に、開催されている。

起死回生の「おはこ市」 自慢の商品で活気を取り戻せ

「これがうちのおはこやねん」をコンセプトに店独自の自慢の商品やサービスを披露。商店街イベントとして「おはこ市」という商店街の共同事業の土台ができたことも大きな成果」と当時から実行委員会の委員長を務める堤さん。「普段は散らばっているけれど、



年3、4回、サンロードを歩行者天国にしてのイベントも開催。年末の餅つき大会や新年初売りセールなどの恒例行事も大盛況だ



「おはこちゃんマーク」や半被などのグッズも「おはこ市」とともに誕生、色は「ロイヤルレッド」で統一



巻頭 特集

これがうちのおはこやねん！

石橋商店街

いつも多くの人で賑い、つい立ち寄りたくなる「石橋商店街」。古き良き時代の香りを残しつつ、今もなお活気に溢れている。そこには、時代の流れに立ち向かいながら「これがうちのおはこやねん」を提供し続けた、店主たちの葛藤と努力があった。



左からおはこ市実行委員会委員長の堤さん(タローパン)、商店街のことを古くから知る天野さん(クリーニング天野)、おはこ市の立ち上げに尽力した黒部さん。「石橋商店街」の魅力語りだしたら止まらない！

若い力でさらなる活性を 「おはこ市」をリニューアル

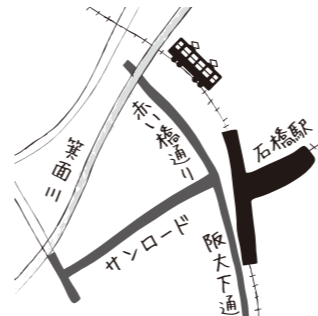
しかし、いくら「おはこ市」で商店街の活気は維持できても、廃業したお店も多く、昔と比べるとずいぶん様変わりした。業種による偏りも出てきて「石橋に行ったら何でも揃う」が、揃わなくなってきた。幸いなことに「石橋商店街」は若い店主も多い。「私らはもういい考えが浮かばないが、若い人達はいろんなアイデアが出て頼もしい」と感心した様子の天野さん。おはこ市実行委員会も30、40代のメンバーが中心だ。

激動する時代を 乗り越えてきた商店街

サンロード、赤い橋通り、阪大下通りの3つの通りからなる「石橋商店街」。阪急石橋駅の開設は明治43年。そして戦前、周辺の住宅地開発により乗降客が急増し、駅前通りに生鮮食品から日用品などの各種店舗が建ち並び始めたのが商店街の始まりだそう。40年ほど前。日本が高度経済成長を遂げた頃、商店街も最盛期を迎え、道が通れないほどの賑わいをみせる。専門店も多い「石橋商店街」は、池田市民だけでなく、川西市や能勢町、箕面市、茨木市など遠方からもたくさんの方が訪れる副都心的な場所だったのだ。「地方の下町風情のある商店街ながら、富裕層の買い物客も多く、高くていい商品がよく売れていた」と、当時衣料品店を営ん



昭和62年頃のサンロード



でいた黒部さんが懐かしそうに話してくれた。しかし、バブル崩壊による不景気の波が商店街にも押し寄せ、さらに近隣地域では大型店やコンビニ等の出店が続く。商店街の買い物客は減少。高級品やスーパーでまとめて買えるような食品は売りにくい時代になった。この状況に危機を感じた店主らは、当時の商店街会長の明里洋助さんのもと、活気を取り戻すべく策を模索。まずは利便性を高めようと駐輪場を建設。そして駐輪場の収益は、商店街の活性化に使うという事で商店街の共同販促事業「おはこ市」が誕生した。



現商店街会長の普川恵子さん。「商店街の役員には女性も多い。主婦目線のおばちゃんパワーで商店街を盛り上げていきたいです！」

鳥ぶろ 佐々木さん

松家本舗 松家光史さん、千英子さん

二葉屋 今田さん

Pizzeria O Sole mio 飯野さん

カフェ&クレープ bon*bon 高貝悦子さん、直世さん

こころ整骨院 石橋院 小川さん、長尾さん

café FUKAWA 普川恵子さん、浩さん